

おきなわ山羊と交雑山羊の産肉性の比較

○千葉好夫・我那覇紀子・野中克治
(沖縄畜研)

【目的】

山羊の産肉性改善を図るため、ボア種と交雑山羊の交配産子（おきなわ山羊区）とザーネン系の交雑山羊（交雑山羊区）を用い、産肉性および肉質の比較検討を行った。

【材料および方法】

1. 試験期間および試験場所

沖縄県畜産研究センターにおいて、2012年7月から2012年12月31日までの183日間実施した。

2. 供試山羊

供試山羊は4~5.5カ月齢で、おきなわ山羊区12頭と交雑山羊区7頭を試験に用いた。また、両区とも観血去勢を実施して試験に供した。

3. 給与飼料の配合割合 (%)

各飼料の配合割合は10mmに細切した所内生産トランスバーラ乾草20%、トウモロコシ65%、大豆粕15%で、飽食とした。

4. 調査項目

1) 乾物摂取量および飼料要求率

飼料要求率は試験期間中の乾物摂取量を試験期間中の増体量で除して求めた。

2) 発育調査

試験開始日から4週間ごとに体重、体高、胸囲を測定した。

3) 枝肉調査

枝肉重量、歩留、背・腹脂肪厚、部分肉重量および内臓重量を測定した。

4) 肉質調査

測定部位は-20℃で冷凍保存したモモ肉を用い、食味・食感および成分分析を行った。

5. 統計処理

調査項目をt検定により統計処理した。

【結果および考察】

1. 乾物摂取量および飼料要求率

1日1頭あたりの乾物摂取量および飼料要求率は、おきなわ山羊区が1199.3gおよび4.6%で、交雑山羊区は1137.2gおよび5.5%で、両区に有意な差はなかった。

2. 発育成績

開始時体重、終了時体重および1日あたりの増

体量は、おきなわ山羊区が28.6kg, 53.3kg, 0.14kgで、交雑山羊区では27.4kg, 48.5kg, 0.12kgで、両区に有意な差はなかった。

3. 枝肉成績

と体長、枝肉重量、枝肉歩留は両区に差はなかったが、背脂肪厚および腹脂肪厚では、おきなわ山羊区が交雑山羊区に比べて、高値を示した。このことから、おきなわ山羊区は脂肪が付きやすいことが示唆され、これらを考慮した肥育技術が必要と考えられた。

表1 枝肉成績 単位：頭，mm

区 分	頭数	背脂肪厚	腹脂肪厚
おきなわ山羊区	12	4.5 ± 1.2*	9.4 ± 2.2*
交雑山羊区	7	3.1 ± 0.8	5.8 ± 1.3

注 1) 平均値±標準偏差 2) *P<0.01

4. 肉質成績

食味分析では、水分が交雑山羊区に比べておきなわ山羊区が低値を示した。食感分析では、破断応力、柔軟性および歯応えともにおきなわ山羊区が高値を示した。飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、 ω 6系脂肪酸および総脂質では交雑山羊区が高く、一価不飽和脂肪酸および不飽和脂肪酸はおきなわ山羊区が高値を示した。また、パルミトレイン酸とオレイン酸はおきなわ山羊区が高値を示した。このことから、去勢肥育したおきなわ山羊は肉質改善に有効であり、本県の新たな市場価値の付与に貢献するものと示唆された。

表2 肉質分析

項 目	おきなわ山羊区	交雑山羊区
水分(%)	73.4 ± 0.4*	75.0 ± 0.9
破断応力(10 ⁵ gW/cm ²)	0.7 ± 0.4*	0.5 ± 0.0
柔軟性	2.3 ± 0.3*	2.1 ± 0.2
歯応え(108gW/cm ²)	3.0 ± 1.0*	2.1 ± 0.3
飽和脂肪酸(%)	31.1 ± 2.0	33.0 ± 1.3*
不飽和脂肪酸(%)	65.9 ± 1.9*	63.8 ± 1.5
ω 6系脂肪酸(%)	8.2 ± 1.9	11.0 ± 2.4*
総脂質(g/100g)	12.7 ± 5.6	17.0 ± 4.1*
パルミトレイン酸(%)	2.8 ± 0.5*	1.9 ± 0.5
オレイン酸(%)	49.7 ± 2.4*	45.9 ± 3.0

注 1) 平均値±標準偏差 2) *P<0.05